

## 2019 年度認定こども園旭幼稚園関係者評価

評価年月日 2020 年 3 月 10 日

評価者名 (小野晃男・備前孟秋)

評価項目	評価 (本園の行った自己評価の内容についてご意見、ご感想を自由に記述ください。)
1-ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の園児の姿、育ちについて話し合う” のぞみ会” は大変重要であると考えます。是非継続して行ってほしい。</li> <li>・複雑化したシフトに対しては、報告、連絡、相談、確認をいっそう緊密に。</li> <li>・のぞみ会の一層の充実を期待しています。</li> <li>・話し合って共有した願いや指導の視点 (問題点・改善点・対応策・・・等) を素書きの形でもよいから記録の集積 (ファイルに集積) しながら保育の経過 (具体化の課程) に吟味検討を加えることにより、保育の進化へとつなげていく。</li> </ul>
1-イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園舎増築工事の不便の中で保育に工夫が図られ、実践が行われた。</li> <li>・安全な保育の視点から見直し・・・散布マップの作成、周辺の危険箇所の洗い出し等。</li> <li>・体感を大切にされた保育の視点から・・・散歩、栽培活動、ホールの利用、庭での絵遊び等々。</li> <li>・自然を対象に、また肌を通しての活動が取り入れられている。</li> <li>・園舎増築により、室内外両面で、園児の活動がより充実するように、保育空間を工夫して設定してゆくよう願っています。</li> </ul>
1-ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当園の保育のあり方を子どもの具体的な姿 (動き) を通して伝えることは、保育者の理解・協力を深める上でも、より有効な方法と思える。</li> <li>・実践の一端を発表する中で、子どもの行動の広がり、保育のあり方が見えてくる。</li> <li>・保護者は自分の子どもを通して、旭幼稚園の評価をしてゆくと考えられます。園の方針を理解していただくと共に、保護者の要望や願いに答えて行く方向で。</li> </ul>
2-ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設や設備、遊具、人員配置等々、総合点検の上に立って充実が図られ、保育活動の一層の充実に努められている。</li> <li>・施設・設備の充実、整備、改善など、園児の側 (立場) にそって、より安全に、活動がより広がる方向を、見ていく保育者の視点を持ってください。</li> </ul>
2-イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急の事態を想定して、日常的活動の状況を選定にした訓練、1～2歳の未自立児を対象に配慮された訓練等、安全に留意した訓練が行われている。</li> <li>・いろいろな場面を想定して、避難訓練、”引き取り訓練”を繰り返し実施することが必要。</li> </ul>
2-ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の参観でリレー走やボール蹴りなどに歓声を上げて興じている元気な姿が見られた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戸外での大きく体を動かす活動へと活動量の広がりがかがえる。</li> <li>・ 年齢別の体育を日程に（週曜日の一部に）位置づけ、幼児期の体力向上の試みを今後の課題としたい。</li> <li>・ 運動的活動を、今の園児には、できるだけ多い機会を与えていくことが必要であると思います。2階ホールの活用を工夫してほしい。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共稼ぎの家庭の多い社会的現状において、「こひつじ広場」のような保育は重要な役割をしており乳幼児対象であるが故に保育のあり方を保護者と連携の上で検討を加えていくことがより必要になるであろう。</li> <li>・ 2グループに分けての保育実施、さらに効果を向上できればいいですね。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育が自己満足やマンネリ化に陥らないようにするためには、保育を通して自己を問う形の実践でなければならない。そのためには、自分なりの問題意識を明確にしながらか追求する姿勢を持つこと以外にない。それが薄いと、研修会に参加しても受け身になってしまう。</li> <li>・ 小野先生による園内研修は年間計画に位置づけて実施してはどうでしょうか。保育者各自が、自分の実践課題をより明確に持って、日常の保育に取り組む姿勢が大切であると考えます。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に、個人的不適応、集団不適応のある子どもさんにおいては、就学前・後の各1ヶ月の期間くらいは保護者も含め三者で緊密に連絡し合って実践を共有し、十分な配慮のもとに新しい環境への適応を図っていくことが重要と考える。小学校との交流教育は発達の上でも意義がある。</li> <li>・ 小学校との連携は、なかなか大変な面があると推察致しますが、その園児の成長のために理解を深める機会を大切にしてほしいと願っています。</li> </ul>

<p align="center"><b>本園の行った自己評価について、上記以外のご意見、ご感想がありましたら記述ください。</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この評価表の表記内容に関して質問点なり問題点をざっくりばらんに話し合う機会が持てたらありがたい。</li> <li>・ 保育者自身の資質（子ども理解を深め視野を広げる）を高めるためには、素書きのものでよいので、記録の集積（ファイル作成）をもとに事故による吟味検討を重ねる実践を。また問題意識（自分なりの課題）を持ち、ある期間（2～3ヶ月）対象児を追求する試みを。 <ul style="list-style-type: none"> <li>【一例】 言葉の広がり 遊びの広がり（種類、友達、興味の持続 等） 自由画の変化 話題の広がり 物事への関わり方の変化 自分を表に出す場所の広がり 等等</li> </ul> </li> <li>・ 認定こども園として要求される面がある中で、旭幼稚園としての保育の目標を実現すべく毎日励んでおられることに対して、敬意を表します。</li> </ul>	

・主の導き、恵み、祝福が、保育にあられるおひとりおひとりの上に、豊かにありますよう、お祈り致します。